

# 新しい県総合計画の全体構成(案)

## 資料1-1 総合部会(第3回)資料

### 計画名称

茨城県総合計画『※今後、基本理念に合致した名称を検討』

#### 【デザイン】

- ・全体頁数は現計画(212ページ)以下とする。
- ・県民に分かりやすく、親しみやすくするため、文章は簡潔な表現とし、写真・図表等の視覚的に分かりやすい情報を多く掲載する。

### 【基本構想】 (2050年頃を展望)

#### 時代の潮流

(県民が一体となって対応すべき重要な視点)

- 急激な人口減少と超高齢化の進行
- 経済社会のグローバル化と交流の拡大
- 大規模自然災害の切迫とインフラの老朽化
- 女性が活躍する社会づくりの要請
- 情報通信技術 (ICT) 等の劇的な進歩
- 2020年リトニック・パラリンピック及び茨城国体の開催 など

#### 茨城の特性

- 恵まれた地域特性 (自然・環境・歴史・文化、東京との近接性、農業等)
- 多様な産業と科学技術の集積
- 国内外を結ぶ広域交通ネットワークの形成など

#### 県民の求めるいばらき

※県民選好度調査、大学生・高校生アンケート(約5,000件)等の結果を反映。

#### 人口・経済の展望

※茨城県版人口ビジョンとの整合を図る。

### 基本理念

### 目標と将来像

みんなで創る ○○○○ いばらき

人が輝く いばらき

“人づくり”を基本に、相互に関連しながら、  
「人が輝く元気で住みよいいばらき」を目指す

活力ある いばらき

住みよい いばらき

※「3つの目標」がそれぞれ目指す地域社会の姿を、将来像として簡潔に記載。

資料1-2

資料1-3

資料1-4

### 【基本計画】 (5年間:H28~32年度)

3つの目標に対応した  
政策分野

人が輝く  
いばらきづくり

活力ある  
いばらきづくり

住みよい  
いばらきづくり

#### I 政策展開の基本方向 (総合的に推進する政策・施策体系)

- |    |   |
|----|---|
| 政策 | ① 未来を拓き世界に羽ばたくたくましい人づくり<br>② 一人ひとりが尊重され活躍できる社会づくり<br>③ 生涯にわたって学べる環境づくりと文化芸術・スポーツの振興                               |
| 政策 | ① 科学技術を活かしたイノベーション環境づくり<br>② 日本の発展をリードする力強い産業づくり<br>③ 農林水産業の成長産業化<br>④ 人・もの・情報が活発に行き交う交流社会づくり<br>⑤ 世界に開かれたいばらきづくり |
| 政策 | ① 少子高齢化に対応した医療・保健・福祉が充実した社会づくり<br>② 人にやさしい快適な生活環境づくり<br>③ 安全・安心な暮らしが確保された社会づくり<br>④ 人と自然が共生する持続可能な環境づくり           |

#### 数値目標

PDCAサイクルを効果的に進めるため、5年間で達成すべき数値目標を設定。

※今後の総合部会において、  
指標の性質や重要度別に指標のレベル分けを行うべきかどうか検討。  
例) 政策目標、基本目標、参考指標

#### II 地域づくりの基本方向

- 目指すべき地域の姿
- 地域づくりを推進していくための3つの視点
- 地域区分の考え方
- 地域づくりの方向 (地域区分別)

※政策の項目ごとに「目指すべき将来像」「現状と課題」「県民意見」「施策及び主な取組」「数値目標」等を整理。

資料1-5

### 【重点プロジェクト】 (5年間:H28~32年度)

時代の潮流や本県の特性を踏まえ、分野横断的又は重点的・先駆的なテーマを選定しプロジェクトとして設定。(※今後の総合部会にて本格的に議論)

- |   |   |
|---|---|
| <p>【テーマ例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ いばらき地方創生PJ(人口減少対策 ※茨城県版総合戦略と整合を図る)</li> <li>○ 次世代に繋ぐ豊かな環境PJ(資源・エネルギー、森林湖沼環境の保護等)</li> <li>○ 高齢者はつらつ活躍PJ(高齢者の社会参加、健康づくり等)</li> <li>○ 県北地域振興PJ(県北国際アートフェスティバル、地域資源の発掘等)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 地域医療充実PJ(医師確保、地域医療等)</li> <li>◇ 暮らしの安全・安心PJ(地域防災力等)</li> <li>◇ 未来を担う子ども・若者育成PJ(確かな学力、豊かな人間性等)</li> <li>◇ 女性の輝く社会実現PJ(女性の社会参加、就職・起業支援等)</li> <li>◇ 茨城国体・東京オリンピック・パラリンピックチャレンジPJ(選手の強化・育成、イメージアップ等)</li> </ul> |
|---|---|

資料1-6

# 総合部会における『基本理念』に関する意見と方向性

資料1-2  
総合部会(第3回)資料

## I 現行計画の基本理念についての意見

### みんなで創る 人が輝く元気で住みよいいばらき

- 総合計画は継続的に末永く進めていくもの。無闇に変える必要はないが、鮮度の高い言葉を一つ込めたい。
- 県民一丸となって取り組んでいくというニュアンスを込める意味でも「みんなで創る」(それに近い言葉)は継続させたい。
- 基本理念は、茨城のプレゼンス(存在意義)であり、決意表明となるものである。社会に働きかけるイメージを。

## II 基本理念の設定の考え方についての意見

- 県民が理解しやすいように短い表現が望ましい。(名刺に入れる)
- 多様性を持って豊かであること、互いの良さ・強みを出し合い、補完しながら全体的に良くなっていくイメージが込められれば。
- 子どもたちが自信を持って未来に向かっていけるような、未来に期待が持てるような未来志向の言葉が入ると良い。
- 次世代に繋げていく、未来のある茨城という考えを入れたい。
- 外(県外・海外)を意識した表現も欲しい。国外などを目指して動き出す、期待できる県であることを示したい。
- 埋もれないような言葉のフック(特徴・インパクト)が欲しい。
- 現行の基本理念との違いを見せる意味でも別の表現を。

## III 基本理念のフレーズ・キーワードに関する意見

- 【フレーズ】
- 「みんなで創る ○○○○ いばらき」  
※「元気な」、「誇りある」、「個性輝く」等
  - 「共に創る 豊かな(きら(煌)めく)未来」
  - 「次世代に繋ぐ誇れる(未来のある)茨城」
  - 「いいとこ、いいもの、いい人いっぱい茨城県」
- 【キーワード】
- 「明日・未来・夢」
  - 「次世代・次代」
  - 「輝く・光り輝く」
  - 「創造(力)・イノベーション」
  - 「人間力あふれる」
  - 「強い」
  - 「優しい」
  - 「笑顔」
  - 「変わる」
  - 「自信」
  - 「ネットワーク」
  - 「できる」
  - 「好き」
  - 「個性(豊か)」

【総論】 「みんなで創る ○○○○ いばらき」を基本フレームとし、「明日」、「未来」、「次世代」といった方向性の言葉を取り入れる

## 方向性(基本理念(案))

### みんなで創る ○○○○ いばらき

【「みんなで創る ○○○○ いばらき」の案】

みんなで創る 元気な いばらき

みんなで創る 次代に誇れる いばらき

みんなで創る 躍動する いばらき

みんなで創る 強く優しく美しい いばらき

みんなで創る 明日の いばらき

みんなで創る | (あい) でつながる Ibaraki

みんなで創る きらめく いばらき

【その他の案】

きらめきをつなぐ いばらき

未来と世界に誇れる価値共創

確かな歩みで未来を創る(世代を繋ぐ)

共に創る 豊かな未来

強くて優しい いばらき

次代に豊かさと安心を繋ぐ地域創造

愛され選ばれ続けるいばらきを目指して

基本理念を実現するための行動目標 = 『人が輝く』・『活力ある』・『住みよい』 いばらきづくり

## I 目標についての意見

### 【現行計画】

誰もが安心して健やかに暮らすことのできる 『**住みよいいばらき**』  
誰もが個性や能力を発揮し、主体的にいきいきと活動できる 『**人が輝くいばらき**』  
競争力ある元気な産業が集積し、交流が盛んな 『**活力あるいばらき**』

- 具体的な目標は、政策に書き込んで行けば良い。表に出る言葉はギリギリ集約させる必要がある。
- 未来を支える子どもたちを育てる「人づくり」が、一番大切。  
→ 目標の順番は、「人」、「活力」、「住」が良い。
- 「人」は文化・歴史、教養、人の心ということで非常に重要。産業、科学といった「活力」、暮らしや環境の「生活」と併せて柱を3つとし、相互に関わり合うということで良い。

## II 将来像についての意見

### 【人が輝くいばらき】

- 地域に根差した郷土愛を育てるようなものが必要。
- 幼い頃から心を育てる、心を鍛える教育をすべき。
- 人間としての教養、魅力、技術を含めた総合力を高めていく。
- 子どもを育てることで大人も育つ。→ 素敵な茨城人になる

### 【活力あるいばらき】

- 茨城のものづくりの技術力は全国に通用するものである
- 茨城の食材は世界トップクラスの評価を受けている。
- 「科学力」、「創造力」、「イノベーション」というキーワード。
- 「海外で稼ぐ(輸出・海外進出・インバウンド)」ことがポイント。

### 【住みよいいばらき】

- 茨城は住むと住みやすくいいところ。茨城の魅力の情報発信を。
- 茨城県は災害に強くて長く安心して暮らし続けられる県。
- 一緒に学び合い、支え合う横のつながりが大切。
- 子どもと高齢者がうまく混ざるといい社会ができる。地域で育てる、地域で見守る社会づくりが必要。

## 「人が輝く元気で住みよいいばらき」の実現

### 方向性(目標と将来像(案))

#### 【目標①】『人が輝くいばらき』

##### 【将来像(案)】

- 学校・家庭・地域が一体となって次代を担う子どもたちの『知・徳・体』を育てています。
- 互いに尊び高め合いながら、誰もがいきいきと活躍できる社会が形成されています。
- 文化芸術・スポーツなどを通じて、健康で明るく心豊かな人生を送ることができています。

#### 【目標②】『活力あるいばらき』

##### 【将来像(案)】

- 日本の経済をリードする革新的技術を生み出す環境が整っています。
- 企業の立地が一層進むとともに、持続的に雇用を生み出す強靱で多様な産業が育っています。
- 高い収益性が確保され、若者にも魅力のある農林水産業が育っています。
- いばらきの魅力や強みが広く認められ、多様な交流が国内外に広がっています。
- 県内企業の海外展開や県産品の輸出、外国企業による投資が促進され、本県が活性化しています。

#### 【目標③】『住みよいいばらき』

##### 【将来像(案)】

- 誰もが適切な医療・保健・福祉サービスを受け、子どもが健やかに育ち、高齢者に安心な環境が整っています。
- 地域社会のつながりが確保され、誰もが快適に日常生活を送ることができる生活環境づくりが進んでいます。
- 生活の安全がしっかり確保され、安心して暮らし続けられる社会づくりが進んでいます。
- 豊かな自然を守り、上手に活かしながら、環境と調和した生活を送ることができています。

※「将来像」について、上記のように政策の柱立てに応じて分割記載するか、1つの文章にまとめるのかどうかについては、今後の部会で検討いただく。

『① 人が輝く いばらきづくり』

政 策	政策の目指す将来像※	施 策	主な取組（キーワード）	
			新 規（ 拡 充 ）	継 続
1 未来を拓き世界に羽ばたくたくましい 人づくり	※政策の目指す将来像は、施策の方向性が定まった後、詳細に記載  学校・家庭・地域が一体となって次代を担う子どもたちの『知・徳・体』を育んでいます	①確かな学力の習得と活用する力の育成	学習意欲の向上、考える力(創造力・問題解決力)、応用力・活用力の向上、主体性、教員の指導力向上、小中等学校間連携、子どもの貧困(教育機会均等)、つまづきの解消、教育投資(未来への投資)、幼少期から個性を磨く教育	基礎的知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力、特別支援教育、私学振興
		②豊かな心と健やかな体を育む教育の推進	道徳教育の強化(討論型、体験型)、考え続ける・問い続ける、問題行動(いじめ・不登校等)対策・相談体制整備、生徒指導、課題解決型	道徳、食育、規範意識・マナー向上、学校体育、読書、コミュニケーション力の向上、人権尊重、ネットいじめ
		③安全・安心で時代の変化に対応した魅力ある学校づくり	ICT、国際、統廃合、長寿命化、危機管理、災害対応、防災教育	信頼関係、教員の資質向上、耐震化、地域への情報発信、学校の適正配置、IT環境整備・活用
		④家庭・地域の教育力の向上と学校との連携	学校・家庭・地域の連携、空き教室活用、多様な体験活動、大学等との連携、地元企業との連携、学校と地域をつなぐコーディネーター、地域と地域・人との連携・ネットワークづくり、家庭の状況に応じた支援	家庭・地域の教育力、地域人材・資源活用、見守り
		⑤地域を知り世界を志向するグローバル人材の育成	郷土教育、実践的英語教育、国際バカロレアの導入促進、外国人教員・AET、留学	国際教育、国際交流、体験活動、ボランティア活動、多文化共生、歴史を活かしたまちづくり
		⑥未来を拓く人材の養成	インターンシップ、起業精神、ICT人材(活用、セキュリティ)、地域産業・地域づくりなどを担う人材、科学とのづくりの連携、医療人材(医師、ヘルスケアなど)、芸術・アート	科学技術、理数教育、キャリア教育、職業教育・訓練、技能伝承
2 一人ひとりが尊重され活躍できる 社会づくり	互いに尊び高め合いながら、誰もがいきいきと活躍できる社会が形成されています	①女性がいきいきと活躍できる社会づくり	男性の意識改革、男性の家庭還り、子どもと育つ、意思の尊重、子と過ごす時間、働き方の先進県、仕事と介護、職場復帰	男女共同参画社会、指導的地位の女性割合向上、ワークライフバランス
		②青少年・若者の育成と挑戦を支える社会づくり	学び直し、職業訓練、正規雇用化、再チャレンジできる仕組みづくり、早期退職の防止、地域の中心になれる若者、地元就職、企業とのマッチング	非行防止、ネット・ひきこもり対策、ネットワークづくり、ボランティア
		③高齢者の知識・経験・技能を活かす社会づくり	地域課題解決(地域づくり・共助・人手不足分野における活躍)、予防・健康、交流、シェアビジネス、生涯現役	就業機会の提供、シェアバンク、生きがい・健康づくり、地域ケア
		④障害者の自立と社会参加を促進する社会づくり	就業支援(学校と企業のマッチング強化)、社会の教育、社会システムの見直し(公共交通)、重度・重複化対応	バーチャル化、相談支援体制、地域の人との交流促進、就労体験
		⑤多様性を認め合う社会づくり	ネットいじめ対策、職場や地域でのいやがらせ	人権、多文化共生
3 生涯にわたって学べる環境づくりと 文化芸術・スポーツの振興	文化芸術・スポーツなどを通じて、健康で明るく心豊かな人生を送ることができています	①文化芸術や伝統文化に親しむ環境づくり	体験・創造・発表機会の拡大、教育と芸術の融合、既存施設の利用、若者を巻き込んだ社会事業、日常の中のアート	美術館・博物館運営、伝統文化継承、文化財の保護活用、担い手育成、アジアとの交流
		②新たなクリエイティブ活動への支援と活力ある地域づくりへの応用	アニメ・映像文化創造、県北アートフェスティバル、地域づくりへの応用	フィルムコミッション、アースプロジェクト
		③茨城国体2019の成功とスポーツに親しむ環境づくり	プロスポーツ連携、スポーツ医科学、選手育成強化(国体・リパテ)、環境整備	競技団体等支援、総合型地域スポーツクラブ、指導育成、国体開催諸準備
		④生涯にわたって学び続けることができる環境づくり	地域と連携した生涯学習、教育委員会に留まらない生涯教育、学び続ける	生涯教育、地域への参加、地域資源の活用



『 ② 活力ある いばらきづくり 』

政策	政策の目指す将来像	施策	主な取組（キーワード）	
			新規（拡充）	継続
1 科学技術を活かしたイノベーション環境づくり	※政策の目指す将来像は、施策の方向性が定まった後、詳細に記載  日本の経済をリードする革新的技術を産み出す環境が整っています	①世界最先端の科学技術力を活かした研究開発の推進	人工知能、ロボット研究開発・実用化、国際戦略特区PJの推進と成果の実用化	研究開発（拠点形成）、研究機関連携
		②持続的かつ安定的な資源・エネルギーの確保	水素、バイオ、LNG、再生可能エネルギー	—
2 日本の発展をリードする力強い産業づくり	企業の立地が一層進むとともに、持続的に雇用を産み出す強靱で多様な産業が育っています	③今と未来の産業を担う人づくりとイノベーションネットワークの活性化	実践的な技術者育成、キャリア教育、学び直し（再チャレンジ）機会の創出、産学官等連携の強化、シズ・ニズ <sup>®</sup> のマッチング促進	職業能力開発、ものづくりへの理解促進、研究者の働きやすい環境づくり
		①産業拠点の競争力強化と企業立地の促進	活動しやすい事業環境の実現（エネルギー・道路整備・港湾利用促進）、強みを活かし時宜を得た企業誘致	北関東沿線、圏央道、TX沿線における産業拠点の形成、日立・鹿島・つくば
		②革新的技術等を活かした成長産業の創出	人工知能・ロボット技術応用、起業気運醸成、産業の育成（コンテンツ、次世代自動車、環境・新エネルギー、健康・医療機器、食品など）、ベンチャー企業育成	成長分野進出支援
		③ものづくり産業の育成	新製品・新技術開発支援、販路拡大支援、農商工連携・6次産業化による付加価値向上、ブランド化促進	地場産業・特産品の育成、デザイン性向上、後継者育成、伝統技術継承
		④時代の変化に適応した商業・サービス産業の育成	ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス（課題解決型ビジネス）の育成、クラウドファンディング導入拡大、オリンピック等を活かした観光業の活性化	中心市街地・商店街活性化
		⑤中小企業の経営革新と経営力の強化	受注共同体の形成、新製品・新技術開発支援による中核企業の育成、企画開発人材の育成	経営革新取組支援、知的財産の利活用、中小企業と大手企業・研究機関の連携
3 農林水産業の成長産業化	高い収益性が確保され、若者にも魅力のある農林水産業が育っています	⑥希望に応じた雇用・就業環境の整備	希望に応じて働ける場の創出、本意非正規の解消、UIJターン促進、若者定着、後継者（担い手）育成	就業相談・労働相談・キャリアカウンセリング、ワーク・ライフバランス
		①安全安心で高品質な農産物を安定供給できる産地づくり	生産振興、長寿命化、環境保全型農業、安定供給	農業水利・畑地かんがい施設等の整備、営農指導強化、生産者交流の場づくり
		②ニーズを捉えた商品づくりと販路の多角化	オリジナル品種の知名度向上・ブランド化、食のイメージアップ、6次産業化、地産地消の取組拡大	GAP（農業生産工程管理）取組拡大、安全性確保、マーケティング強化
		③産地や地域を支える意欲ある担い手づくり	農地集約（耕作放棄地）、異業種・産学官連携	多様な担い手の確保育成、技術や資本を継承できる仕組みづくり
		④県産木材の利用促進と木材産業の発展	後継者（担い手）育成、循環型エネルギー（木質バイオマス等）、6次産業化（特用林産物）	緑の循環システム、生産基盤強化、いばらき木づかい運動
		⑤力強い水産業の確立と水産物の安定供給	後継者（担い手）育成、漁場の保全、栽培漁業の推進、6次産業化、水産施設長寿命化	水産物の地産地消、情報発信、経営安定化、つくり育て管理する漁業の推進、風評被害対策
4 人・もの・情報が活発に行き交う交流社会づくり	いばらきの魅力や強みが広く認められ、多様な交流が国内外に広がっています	⑥地域資源の利活用による農山漁村の活性化	エネルギー循環型集落形成、空き家・廃校活用、グリーン・ブルー・ツーリズム、アグリビジネス創出、都市農村交流	農村地域の生活環境基盤の整備、交流の活性化、鳥獣害対策、耕作放棄地活用
		①国内外から選ばれる観光の推進と人を魅了する地域づくり	国内外への情報発信強化、メディアカルツリズム等、地域産業の活用、Wi-Fi環境整備、道路等整備、オリンピック等を活かした地域づくり	通訳ボランティア育成、外国語表記、旅行商品開発、地域資源活用
		②広域交通ネットワークの充実と効率的な物流体系の構築	高速道路・広域幹線道路等整備、就航対策・利用促進、港湾機能強化、常磐線東京駅乗入本数増、物流高度化、長寿命化	道路交通環境整備、高速バス充実、TX東京延伸
5 世界に開かれたいばらきづくり	県内企業の海外展開や県産品の輸出、外国企業による投資が促進され、本県が活性化しています	③ICT環境の整備によるユビキタス社会の構築	ビッグデータ・オープンデータ（位置情報含む。）の活用、テレワークなどを実現するICT環境の整備	IT化、情報活用能力向上、ITベンチャーの起業促進、電子自治体の充実
		①中小企業の海外展開支援	海外進出に関する情報提供、海外販路開拓・拡大	JETRO・上海事務所の連携による販路拡大
		②農林水産物・食品の輸出促進	海外におけるPR促進、生産技術等提携、東南アジア（タイ・ベトナム等）への輸出促進	—
		③対日投資の県内誘致	投資促進セミナー、MICE誘致、外国人受入れ環境の整備（インターナショナルスクール、行政サービス、多言語表記）	—

『 ③ 住みよい いばらきづくり 』

政 策	政策の目指す将来像※	施 策	主な取組（キーワード）	
			新 規（拡 充）	継 続
1 少子高齢化に対応した医療・保健・福祉が充実した社会づくり	※政策の目指す将来像は、施策の方向性が定まった後、詳細に記載  誰もが適切な医療・保健・福祉サービスを楽しみ、子どもが健やかに育ち、高齢者に安心な環境が整っています	①安心して結婚・子育てができる社会づくり	地域包括ケアシステム(相談支援対策充実, 子どもの貧困対策等), 安心して生み育てられる環境, 切れ目のない支援, 小児医療費無料化, 相談窓口(周知)	結婚支援体制の充実(出会いサポート), 子育て支援拠点づくり, 周産期医療, 待機児童解消, 児童虐待防止, ワークライフバランス
		②高齢者が安心して暮らせる社会づくり	地域包括ケアシステム(在宅医療・介護連携, 認知症施策等), 見守り, ICT活用, 尊厳保持, 多世代同居(茨城スタイル構築)	介護予防, 認知症サポーター, 宅配・移動販売, バリアフリー
		③障害者への生活支援の充実	地域包括ケアシステム(在宅医療・介護, 就労支援体制強化等), 工賃向上, 就労の場	自立支援, ノーマライゼーション, バリアフリー, 小児リハビリ, 相談支援
		④医療体制の充実	地域包括ケアシステム(医療・介護・予防・生活支援の一体的提供), 広域連携体制強化(道路整備含む), プライマリケア, ICT活用, 女性医師雇用環境	医療従事者養成・確保, 救急医療体制強化, へき地医療対策
		⑤安心な暮らしを支える保健・福祉サービスの提供	地域包括ケアシステム(見守り, 配食サービス, 外出支援等), 介護従事者確保	感染症対策, 医療費助成, 生活保護制度, 医療福祉制度(マル福),
		⑥生涯にわたる健康づくり	予防医学, 健康寿命	生活習慣病対策, 受動喫煙防止, 食育, 歯科保健, 心の健康, 薬物乱用阻止, ヘルスロード
2 人にやさしい快適な生活環境づくり	地域社会のつながりが確保され、誰もが快適に日常生活を送ることができる生活環境づくりが進んでいます	①効率的で利便性の高いまちづくり	集約と連携(コンパクト+ネットワーク), 小さな拠点, 空き家・廃校活用, 公共交通, 歩行者・自転車に配慮した道路環境	ユニバーサルデザイン, 地域鉄道の活性化, 安全で快適な住まいの供給
		②共助社会づくり	地域の見守り, 自主防災, 多文化共生(外国人相談体制充実・多言語表記)	ボランティア活動, 災害時対応, 外国人支援, 外国人研究者が暮らしやすい環境
		③快適な生活衛生環境の確保	水道施設の改築・更新(水の確保・安定供給), 汚水処理未普及地域の解消, 動物愛護・飼育意識啓発	公共下水道整備, 集落排水・合併処理浄化槽設置, 理・美容所等監視指導, ペットの衛生指導
3 安全・安心な暮らしが確保された社会づくり	生活の安全がしっかり確保され、安心して暮らし続けられる社会づくりが進んでいます	①災害に強い県土づくりと危機管理体制の整備	減災対策, 自主防災組織, 消防団の充実強化, 近接県との連携強化, 東日本大震災を教訓とした対策, 長寿命化・耐震化, 海岸防災林機能強化, 森林保全(土砂災害防止), 緊急輸送道路の整備, 国土強靱化	被災者支援(避難支援・医療救護等), 防災情報ネットワーク, ハザードマップ作成・周知, ライフライン確保, 治山対策, 耐震強化岸壁, 河川整備, 用排水機場等整備, 武力攻撃対策
		②原子力安全対策の徹底	原発事故を教訓とした対策, 近接県との連携強化	環境モニタリング, 放射性物質検査, 避難システム, 県民の不安解消, テロ対策
		③犯罪対策の強化	科学技術を活用した捜査, 消費者被害対策, 被害者支援, サイバー犯罪	ストーカー犯罪, DV, 子ども・高齢者への教育, 防犯ボランティア, 食の安全
		④交通安全対策の強化	高齢者安全対策, 通学路安全対策(交通危険箇所改修), 軽傷事故を含めた事故件数削減	交通指導取締, 交通安全施設の整備, 交通安全教育, 相談業務充実
4 人と自然が共生する持続可能な環境づくり	豊かな自然を守り、上手に活かしながら、環境と調和した生活を送ることができています	①地球温暖化対策の推進	マイカー依存の軽減(公共交通, 歩行者・自転車に配慮した道路), 年齢に応じた取組, 水素社会, 森林保全(温暖化対策)	省エネルギー対策, 環境学習機会拡充, 再生可能エネルギー, 公共交通利用促進
		②資源循環型社会づくり	3R推進, 資源・エネルギーの地域循環, 先進技術等を活かした不法投棄取締	廃棄物の発生抑制, 未利用バイオマス活用, 廃棄物再生利用
		③霞ヶ浦・涸沼など湖沼環境の保全と活用	ラムサール条約登録を契機とした涸沼のワイズユース, 水郷筑波国定公園の利活用	水質保全・改善, 排水基準遵守, 資源循環型農業, 森林保全(水源涵養), 緑化意識
		④身近な地域環境の保全	里山林の保全, 水や緑に親しめる環境づくり, 鳥獣害対策	大気環境保全, 生態系保全, 自然環境保全意識啓発

### 地域づくりに関する意見

- 結婚、子育てなど、安心して生活できる環境であることを強調すべき。
- 地域の目指すべき姿として、「予防・医療・福祉」の充実というキーワードが必要。
- 地域づくりは女性、高齢者、若者に加え、働いている男性など、すべての県民が関わる必要がある。
- それぞれの住んでいる地域を愛してもらい、誇りを持ってもらうことが重要。
- 愛着や誇りを持てる地域づくりを行うためには、「文化」(歴史、自然、食を含む)を伸ばす、活かす、継承することが必要。
- 地域間連携、広域連携を進めるにあたっては、全国や海外を含めた隣接以外の地域との連携の視点も必要。
- 地域間連携を推進するためには、インフラなどハード面だけでなく、歴史・文化、制度、人づくりなどソフト面も合わせて活用することが必要。

### 目指すべき地域の姿

県内各地の特色ある地域資源を最大限に活用しながら、次に掲げる地域づくりを進める。

- 産業振興や雇用の場の確保、交流人口の拡大を図り、地域間競争に勝ち抜くことのできる地域
- 災害への対応力、医療・保健・福祉、食の安全確保等が充実し、安心して子育てができ、誰もが安全・安心に住み続けることができる地域
- 一人ひとりが生きがいや充実感を感じ、心豊かな生活ができる地域

### 地域づくりを推進していくための3つの視点

#### (1)新しい「協働」による地域づくり

- ・ 多様な主体の自発的な参加と連携による地域づくりの推進
- ・ それぞれの主体の活動を支援する環境の整備

#### (2)愛着や誇りのもてる地域づくり

- ・ 自然、歴史、食、伝統文化等の地域の魅力を発見し、効果的に訴求することによる知名度の向上
- ・ 県民や地域に携わる人が愛着や誇りのもてる地域づくりの推進

#### (3)地域間連携と広域的な視点に立った地域づくり

- ・ 地域間連携により地域の活力の維持・向上を図り、持続可能な地域づくりの推進
- ・ 広域交通ネットワークを活用した広域的な視点に立った地域づくりの推進

#### 【参考：地域計画編の策定状況】

- ・ 総合計画を策定している44都道府県のうち、地域計画編を策定しているのは23府県。(52.3%)
- ・ 上記のほとんどが、広域的な行政区分により地域区分を実施。(例：群馬県－5つの県民局の単位により区分)
- ・ 行政区分とは異なる特徴的な地域区分をしているのは  
埼玉県－生活圈等による10区分に加え、都心からの距離で区分(都心から概ね10～30km圏、都心から概ね30～60km圏、都心から概ね60km以遠)  
千葉県－空港ゾーン、圏央道ゾーン、東葛・湾岸ゾーン、香取・東総ゾーン、南房総ゾーン

## 地域区分の考え方に関する意見

- 県北の中でも、臨海部と山間部とではかなり状況が違うので、現在の6つの地域区分で考えていくのが良い。
- 全県単位で動いているので、テーマで結び付けたり、現行の6地域区分は基本的に活かしながら、高速道路、文化、食、芸術、水郷筑波国定公園など、様々な要素を重ねて考えられないか。

### 【現行計画における区分の考え方】

- 社会経済の結びつきや地理的、歴史的条件などを踏まえ、「県北山間」「県北臨海」「県央」「鹿行」「県南」「県西」の6地域に区分
- 6地域については、市町村界で区分せず、弾力的なゾーンを設定

## 次期計画の地域区分の考え方

- 地域固有の特性や課題を共有して地域づくりを効果的に推進する観点から、引き続き、現計画と同じ6地域区分（「県北山間」「県北臨海」「県央」「鹿行」「県南」「県西」）を基本とする。
- 6地域の境界については、経済圏、生活圏等の実状を踏まえながら弾力的なゾーン設定を行う。

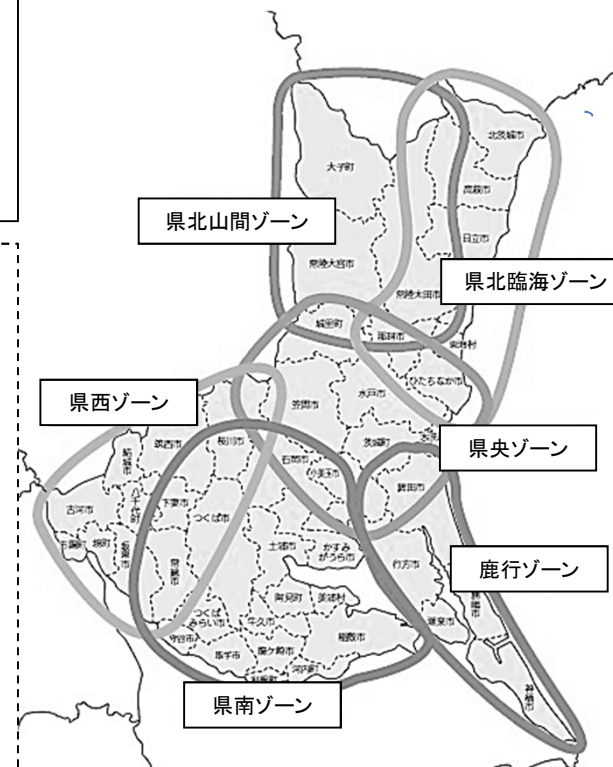
### ゾーンを横断する広域的な取組み

基本区分に加え、近年の動向を踏まえながら、各ゾーンを越える課題に対応するため、県内だけでなく隣接県との連携を含む、ゾーンを横断する取組みについて新たに記載する。

### 【取組み例】

- ◆ 高速道路ネットワークを活用した産業集積や交流を促進する取組み  
(例) 圏央道、北関東道、東関東水戸線の沿線エリア
- ◆ 鉄道ネットワークを活用した新たなまちづくりを進める取組み (例) TX沿線エリア
- ◆ 自然資源やスポーツ等に着目した魅力ある地域づくりの取組み (例) 水郷筑波国定公園エリア
- ◆ 新事業・新産業の創出による産業の競争力強化を図る取組み  
(例) つくば国際戦略総合特区エリア(つくば市、東海村、大洗町)
- ◆ 文化、芸術、食などに着目した魅力ある地域づくりの取組み  
(例) アートフェスティバル・アーカスプロジェクト、常陸秋そば

### 【参考：現行計画の地域区分】





# 『重点プロジェクト』の考え方と方向性(案)

資料1-6  
総合部会(第3回)資料

## 重点プロジェクトの考え方

- 時代の潮流や本県の特性を踏まえ、重要性・緊急性の高い課題に対応するために、今後(平成28年度からの)5年間に優先して取り組むべきプロジェクトを「重点プロジェクト」として示すものとする。
- プロジェクトは、分野横断的又は重点的・先駆的なテーマで設定する。
- なお、人口減少対策は、緊急かつ最重要の課題であるが、現在、茨城県総合戦略の策定作業を行っており、今後、総合戦略に基づく取組を進めていくので、本計画の重点プロジェクトでは、「いばらき地方創生プロジェクト」として別枠に置き、総合戦略と整合を図るものとする。

【参考:時代の潮流(H26.11.21 総計審資料)】

- ① 急激な人口減少と超高齢化の進行
- ② 社会経済のグローバル化と交流の拡大
- ③ 大規模自然災害の切迫とインフラの老朽化
- ④ 資源・エネルギーの制約や地球環境問題の深刻化
- ⑤ 情報通信技術(ICT)等の劇的な進歩
- ⑥ 生活の安全と安心を求める意識の高まり
- ⑦ 価値観の変化とライフスタイルの多様化
- ⑧ 女性が活躍する社会づくりの要請
- ⑨ 地方分権改革及び広域行政の進展
- ⑩ 2020年東京オリンピック・パラリンピック及び茨城国体の開催

## 方向性(重点プロジェクト(例))

### ★ いばらき地方創生プロジェクト ※茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略と整合する

- (1) 本県における安定した雇用の創出 :ものづくり産業の育成,農林水産業の成長産業化,企業誘致,観光振興,国際展開,雇用創出 等
- (2) 本県への新しい人の流れをつくる :東京圏からの移住促進,地域を志向する意識の醸成,人材の県内採用の拡大,政府機関誘致 等
- (3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる :若い世代の経済的安定,結婚支援,妊娠・出産・子育て支援,ワーク・ライフ・バランス 等
- (4) 時代に合った地域をつくり,安心な暮らしを守るとともに,地域と地域を連携する :小さな拠点,中心市街地活性化,ストックマネジメント 等

### 1. 地域医療充実プロジェクト

- 医師等の医療従事者の確保
- 地域医療の役割分担と連携推進 等

### 2. 暮らしの安全・安心プロジェクト

- 地域防災力の向上
- 治安・交通安全対策の充実 等

### 3. 次世代に繋ぐ豊かな環境プロジェクト

- 資源・エネルギーの地域循環
- 森林湖沼環境の保護・保全・改善 等

### 4. 未来を担う子ども・若者育成プロジェクト

- 確かな学力を身につける教育の充実
- 豊かな人間性を育む教育の推進 等

### 5. 高齢者はつらつ活躍プロジェクト

- 高齢者の社会参加,就職支援
- 生涯学習・スポーツ,健康づくり 等

### 6. 女性が輝く社会実現プロジェクト

- 女性の社会参加,就職・起業支援
- 女性の能力を発揮できる環境整備 等

### 7. 県北地域振興プロジェクト

- 県北国際アートフェスティバル(仮称)の成功
- 地域資源の発掘,発見,発信 等

### 8. 茨城国体,東京オリンピック・パラリンピック チャレンジプロジェクト

- 選手の強化・育成,キャンプ地の誘致,観光客の誘致
- 情報発信力の強化,イメージアップ 等

## 『計画推進の基本姿勢』について

## 1 考え方

急激な人口減少や超高齢化の進行に伴い、労働力不足や経済成長の鈍化など、様々な課題に直面する中、総合計画を適切に推進し、基本構想に掲げる目標を達成するためには、共助の精神により、若者や高齢者を含め県民みんなが担い手としていばらきづくりを進めていくことが何より重要である。

また、県民の多様なニーズに的確に対応し、課題の解決を図るためには、本県の優れた地域資源や潜在力を最大限に活かしていくとともに、近隣都県等との広域連携や、市町村への権限移譲など、各自治体との連携や適切な役割分担を進めていく必要がある。

加えて、県は、限られた行政資源を有効に活用しながら、効果的かつ効率的な行政運営に努めていくとともに、計画を適切に進行管理し、目標に向けて施策を実施していくことが求められている。

## 2 基本姿勢（骨子）

- (1) 全員参加のいばらきづくり
  - ・「みんなで創る」方策
- (2) 地域資源を最大限に活用
  - ・優れた地域資源の活用方策
- (3) 広域連携と権限委譲
  - ・各自治体との連携と役割分担
- (4) 適切な進行管理と行財政改革の推進
  - ・P D C Aサイクルの活用
  - ・不断の行財政改革推進
- (5) 部門別計画との役割分担
  - ・総合計画と部門別計画との役割分担の整理、体系

## 3 論 点

- 基本理念（案）にある「みんなで創る」を具現化するには、どのような仕組み・方策があるか。

## ○ 参考（現計画）

### 1 みんなで創る「いばらき」

#### <姿勢>

地域づくりの主役である多様な主体が、計画の基本理念や目標をしっかりと共有し、「新しい公共」という考え方も踏まえながら、様々な活動に取り組み、互いに連携・協働して、「生活大県いばらき」をみんなで創っていきます。

### 2 茨城の地域資源や潜在力の活用

#### <姿勢>

県内それぞれの地域が持つ豊かな地域資源を最大限活用し、調和のとれた魅力あふれるふるさとづくりを進めます。

### 3 行財政改革の推進

#### <姿勢>

危機的な財政状況を克服し、必要な行政サービスを安定的に提供できるよう、組織・人員のスリム化や事務事業の抜本的な見直し、職員の意識改革など、引き続き徹底した行財政改革を推進するとともに、時代の潮流や県民の意見などを踏まえて、重要性や緊急性の高い施策に、重点的かつ横断的に取り組みます。

### 4 「生活大県プロジェクト」の推進

#### <姿勢>

プロジェクトの目的を明確化し、分野横断的に取り組むとともに、モデル事業の設定等により、新たな取組にもチャレンジするなど、多様な主体と連携しながら「生活大県プロジェクト」を積極的に推進します。

### 5 地方分権の推進と市町村・近隣県等との連携

#### <姿勢>

県と市町村は、地域の課題や情報をしっかりと共有し、それぞれの役割分担を踏まえながら、効率的・効果的に“いばらきづくり”を進めます。

県域を越えた行政課題に対応しながら、本県の発展を図っていくため、近隣県との広域的な連携や、県境を越えた交流を促進します。

### 6 計画の適切な進行管理

#### <姿勢>

PDC Aマネジメントサイクルを活用し、施策や事業の見直し・改善を図り、「生活大県プロジェクト」をはじめ、計画全体の適切な進行管理を行います。

### 7 総合計画と各部門別計画との役割分担の明確化

#### <姿勢>

総合計画と各部門別計画は、相互補完関係にあり、役割分担を明確にするとともに、緊密な連携を図りながら一体となって着実に取組を推進していきます。